

普及活動情勢報告

情勢報告（平成28年7月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

十和の伝統野菜を次世代の子供たちへつなぐー昭和小学校で出前授業を開催ー



昔高菜の種とり体験をする
小学生ら

6月22日、大道地区の昔野菜栽培農家3人と普及所は四万十町立昭和小学校の3、4年生の計8人を対象に大道地区に残る食文化の出前授業を行いました。

出前授業では普及所職員が昔野菜（昔大根、昔カブ、昔高菜）の特徴や育て方などの話をし、その後、2班に分かれて昔ながらの種とりを体験してもらいました。小学生からは、「種を取るのが大変やった」、「種をまいて育てるのが楽しみ」といった多くの感想を聞くことができ、大道地区で栽培されている昔野菜に関心を持ってもらうことができました。

普及所は同校と連携し、9月には種まき、来年1月には収穫と料理づくりを行う予定です。

品質向上を目指してーJA高知はた十和支所ユズ部会が現地検討会と栽培講習会を開くー



開心自然形のユズを見る
生産者ら

6月23日、JA高知はた十和支所ユズ部会は、現地検討会と栽培講習会を行い、生産者22名が参加しました。

現地検討会では、樹形を開心自然形にしたユズ園を見学し、現地で広く普及している盃状形との違いを見てもらいました。生産者からは、歳をとると管理しやすい低い樹形が良いという意見がありました。

普及所は、栽培講習会でユズ果実の外観を保持するための病虫害防除について説明しました。生産者からは、薬剤の使用時期や使用方法に関する質問や、頻繁に指導に来てもらいたいという要望もありました。

今後も、普及所はJAと連携して、ユズの品質向上の取り組みを支援します。

ハウス内環境の「見える化」の推進ー興津地区ミョウガ現地検討会の開催ー



意見交換をする生産者ら

7月11日、JA四万十ミョウガ部会では、生産者間の情報交換を促進し、栽培技術の向上を図ることを目的に現地検討会を開催し、生産者18名が参加しました。

現地検討会では、かん水や施肥などの栽培管理に対する意見交換を行い、「養分転流を意識した管理を行っているか」などの質問がありました。

普及所からは、ハウス内環境の測定による「見える化」の意義についての呼びかけや試験経過の報告などを行いました。

今後も、普及所は関係機関と連携して、生育ステージごとに現地検討会を実施し、ハウス内環境の「見える化」の推進を行っていきます。

出荷量の維持・品質向上をめざして！－北幡地域のシントウ現地検討会を開催－



整枝方法について意見交換する生産者

6月27日から7月7日にかけて、J A高知はた大正支所及び十和支所シントウ部会の現地検討会を12ヵ所で開催し、生産者87名が参加しました。

J A高知はた北幡営農センターと普及所から、収量・品質向上のための栽培管理技術や、農薬の適正使用についての資料を基に説明を行いました。

生産者からは、整枝やかん水方法、農薬の使用量等についての質問が出され、今後の栽培管理の確認を行いました。

今後も、普及所は北幡営農センターと連携し、現地巡回等を行い収量・品質の向上に努めていきます。

新規栽培者の掘り起こし－秋冬野菜等の栽培説明会を開催－



大正地区で栽培を説明する普及指導員

J A高知はた営農改善協議会は初心者向け栽培説明会を、十和地区では7月8日、大正地区では7月12日に開催し、生産者7名が参加しました。

説明した品目は、ナバナ、インゲン、茎ブロッコリー、セネガ（薬用作物）で、J A高知はた北幡営農センターからは、経営規模や収支、出荷形態について、普及所からは栽培体系と栽培管理技術を説明し、作付けを推進しました。

参加者からは、ナバナやインゲンの出荷調整作業の方法、セネガに適するほ場条件などの質問が出され、これらの品目に関心を示しました。

普及所は、J Aと連携し各品目部会等が実施する栽培講習会で詳細な栽培技術指導を行い、新規栽培者を支援します。

次世代施設園芸団地の人材育成－農の雇用事業説明会を開催－



事業概要を説明する普及指導員

7月14日、四万十とまと（株）会議室で、次世代施設園芸団地及び種苗供給施設の4会社を対象に、高知県農業会議と連携して農の雇用事業説明会を開催し、代表取締役など3名が参加しました。

普及所は、農の雇用事業の目的や概要を説明し、高知県農業会議は、申請書を基に具体的な書き方や、申請に必要な書類、助成内容などについての説明を行いました。

会社からは、何名まで助成が受けられるのかなどの意見がありました。また、申請については、今回あるいは次回（第4回）の募集期間に申請する予定となりました。

今後も、普及所は次世代施設園芸団地の経営の安定化に向け支援します。